

5-2 東海地方における地震活動の変化（1987年11月～1992年10月）

On the Seismic Activity in the Tokai District (November, 1987 – October, 1992)

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division
Japan Meteorological Agency

第1図は東海地方における最近5年間のマグニチュードが3.0以上の地震活動状況を示したものである。この図に示したA, B, C 3領域の主な地震活動の変化は次のとおりである。

A領域：この領域の北半分の内陸部では地震は定常的に発生しているが、南半分の大部分が海域となっている領域では1990年頃から、活動レベルがやや低下している。

B領域：1988年後半から1989年前半にかけて地震活動が空白化したが、これ以降、地震の発生数は平常状態に戻った。1989年後半以降、本年10月30日までに発生した地震は33個^{*1)}で平均すると月1個弱の割合である。しかし発生場所が静岡市から焼津市付近の内陸部に片寄り、南半分の海域では1990年末から地震が発生していないなど、留意すべき点が残されている。最新の地震は8月9日00時27分のM3.9（山梨県南部）である。

C領域：1990年2月20日に伊豆大島西方沖でM6.5の地震が発生して以降、伊豆半島東方沖や伊豆大島近海では、活動レベルが低下した。これに対し、新島付近から南の海域では東海道はるか沖のM6.6の地震（1990年9月24日）の発生以降、三宅島近海の群発地震（1990年10月）、新島から神津島近海にかけての地震活動（1991年4月～10月）、東海道はるか沖のM6.3の地震（1991年9月3日）など地震活動が活発化した。最近では神津島近海のM5.3（1992年3月10日）、M5.2（6月15日）、新島近海のM5.1（10月17日）の地震など新島から神津島近海に集中した活動が見られ、今後の活動の推移が注目される^{*2)}。

*1) これら33個の地震は次のとおり。

1989年7月から1992年4月までの31地震については、連絡会報第44巻～48巻「東海地方における地震活動の変化」の末尾に掲載。

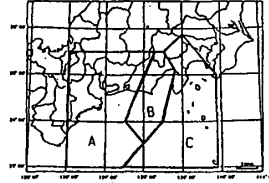
32. 1992年8月7日10時11分, M3.0（深さ13km）

33. 1992年8月9日00時27分, M3.9（深さ15km）, 最大震度2。

*2) これらの活動については、連絡会報第44～48巻及び本巻別項参照。

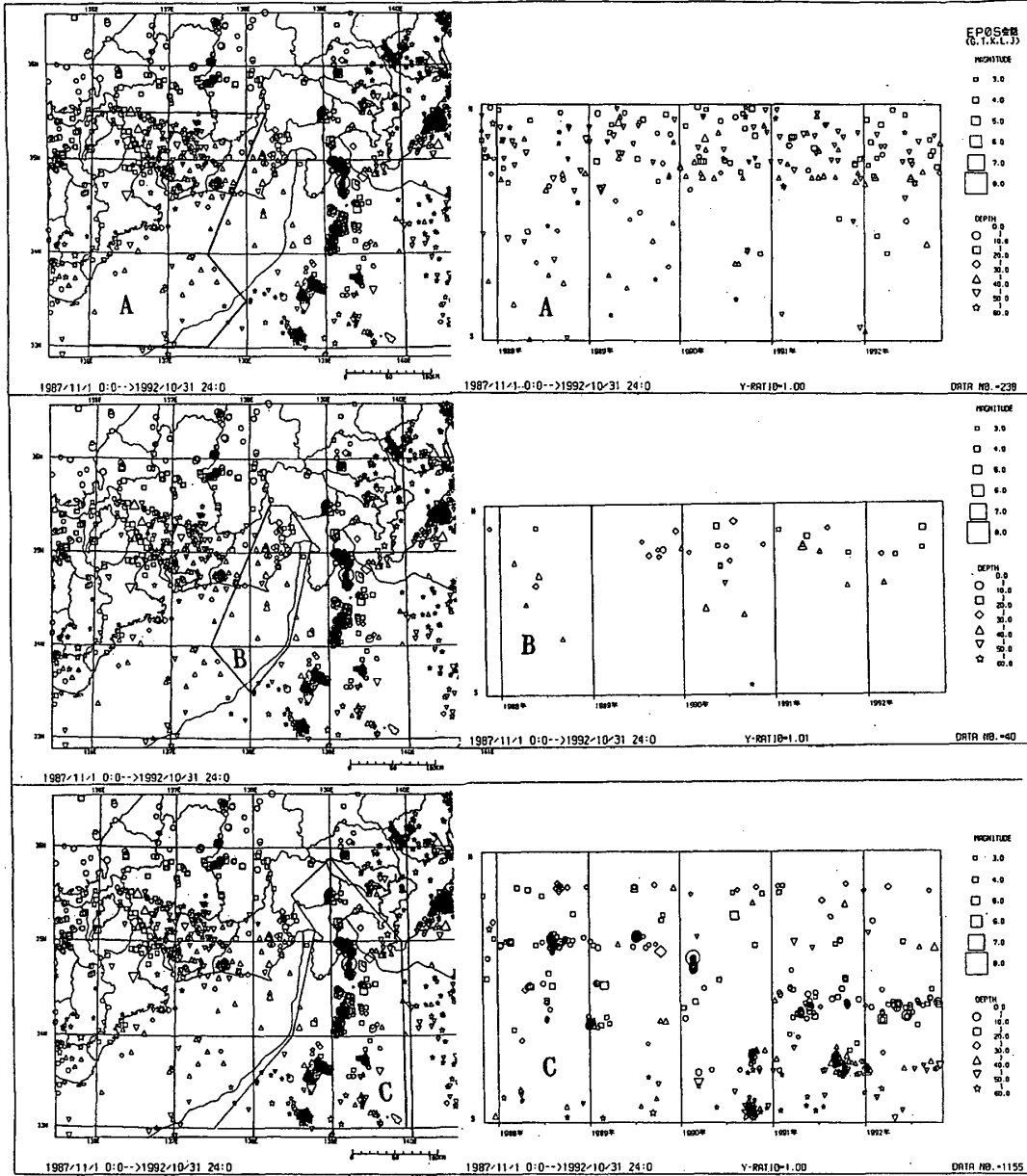
東海地方における地震活動の変化

1987. 11. 1
 ↓
 1992. 10. 31
 M 3.0 →
 DEP. 0.0 - 60 km



① 震央分布図

② 時空間分布図



【断定】：1992年7月～

(気象庁のほか、東京大学、名古屋大学、防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 東海地方のA, B, C領域における地震活動
 (1987年11月1日～1992年10月31日; M3.0以上)

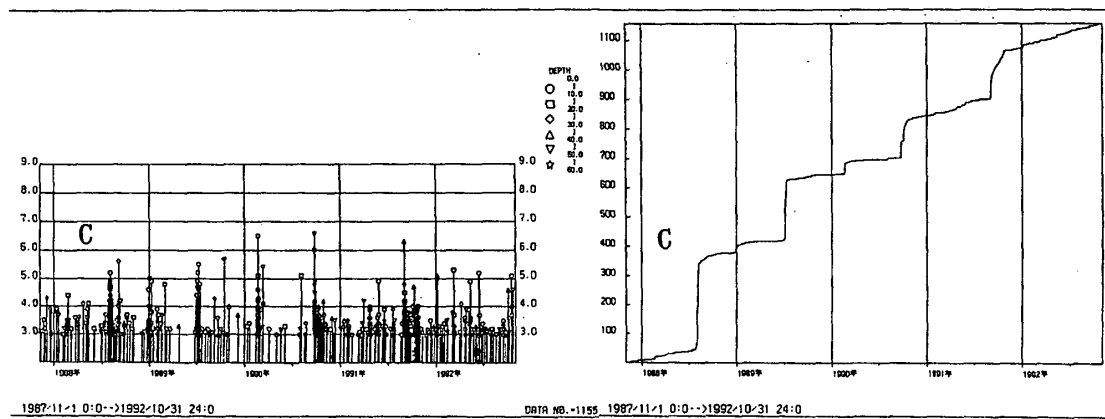
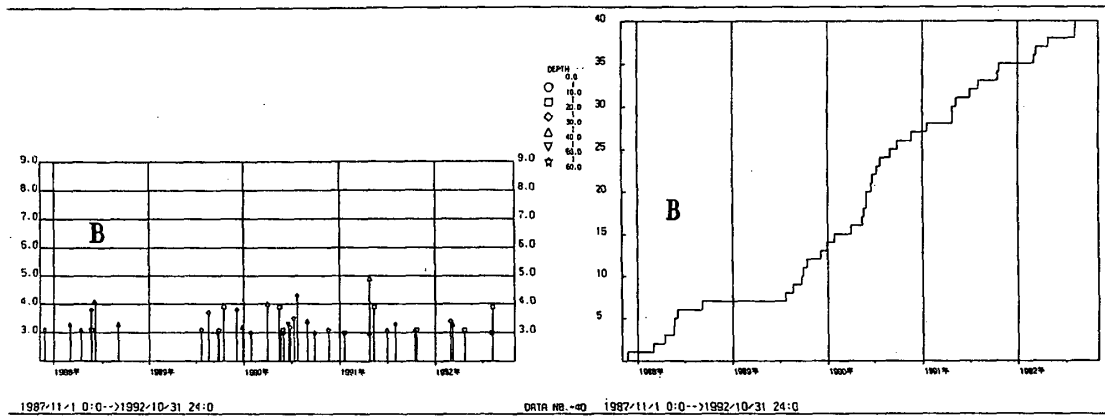
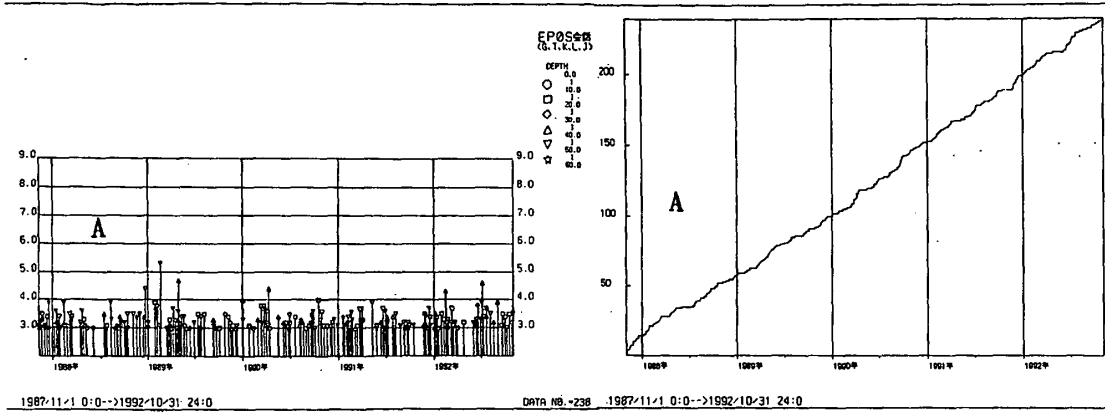
①: 震央分布, ②: 時空間分布, ③: M-T図, ④: 地震回数積算図

Fig. 1 Seismic activity in A, B and C regions in the Tokai District (November 1, 1987 – October 31, 1992; $M \geq 3.0$).

①: Epicentral distribution, ②: Space-time plot, ③: M-T diagram, ④: Cumulative number of earthquakes.

③ M-T図

④ 回数積算図



第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)